

教材名「40m ハードル走」

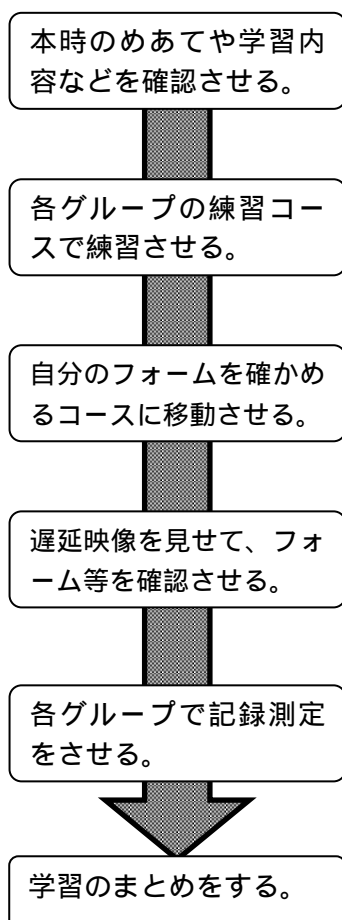
目 標

- ・ 自分の課題に気づき、課題解決の仕方を工夫することができる。（思考・判断）
- ・ 互いに協力して、励まし合い、教え合いながら、運動に取り組むことができる。
（関心・意欲・態度）
- ・ インターバルのリズミカルな走り方やハードリングの技能を高め、記録に挑戦することができる。
（技能）

コンピュータを活用する利点

ハードリングやインターバル走の技術の向上のためには、技術をよく理解して反復的な練習を行うことが必要となり、活動が単調になりがちである。そのため、児童たちの実際のフォームをデジタルビデオカメラで撮影し、遅延映像を見ながら自分のフォームを確認することは、自分の課題を持って主体的に取り組んだり、自分のフォームや記録をよりよくしていこうとする意欲の持続や向上につながると考えた。

授業の流れ



ICT 活用場面

グループ練習時、1グループ3～4分程度交替で「自分のフォームを確かめるコース」に移動させ、遅延映像表示装置を活用した個別指導を行った。ここでは、児童が走り終えた後、遅延映像をプラズマディスプレイ



（以後 PDP と呼ぶ）の画面に映し出し、すぐに教師と一緒に PDP の前で自分のフォームが見ることができるような場を設定した。この遅延映像表示装置は、デジタルビデオカメラで撮影した映像を常に数十秒遅らせて表示する機能があるので、個別指導や自己評価に活用した。

成果と課題

児童が走り終えて、自分のイメージがはっきりしているときに、自分のフォームを見ながら自己評価ができた。また、一緒に見ている教員からは、適切なアドバイスを受けることができるので、自分のめあてを明確に意識しながら、学習に取り組むことができた。今回、企業の協力により遅延映像表示装置を活用したが、日常的な実践においては、DVD レコーダーの「追っかけ再生」による遅延映像を活用していきたい。

ICT 活用環境等

使用周辺機器	遅延映像表示装置（PastVision PV-C200）・デジタルビデオカメラ・PDP・ノート PC 各 1 台
使用教室	運動場